

平成27年度「全国学力・学習状況調査」における 門司海青 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・ 実生活において不可欠であり、常に活用できようになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

門司海青 小学校「平成27年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)結果

		国語A	国語B	算数A	算数B	理科
平成25年度	本市	60.3	46.3	74.6	56.5	
	全国	62.7	49.4	77.2	58.4	
平成26年度 (理科：平成24年度)	本市	69.1	52.6	76.2	55.4	59.7
	全国	72.9	55.5	78.1	58.2	60.9
平成27年度	本市	67.1	62.1	73.3	43.7	57.3
	全国	70	65.4	75.2	45	60.8

② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率をわずかに下回っていたが、書くこと、読むことの領域については、上回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	文を構成する主語と述語との照応関係を捉える問題や具体的な事例を挙げて説明する文章を書くことの問題について正答率が高かった。日頃から、文の中における主語と述語との関係に注意したり、具体的な事例を挙げて、わかりやすく友達に説明したりしていることがうかがえる。	
	努力が必要な問題	漢字の読み書きに対する無回答率が高かった。当該学年までに配当されている漢字を習得したり、国語辞典や漢字辞典の利用を習慣づけたりする必要がある。文の中における主語を捉えることができるかどうかみる問題の正答率が低かった。新聞のコラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜き問題の正答率が低かった。日頃から記事の書き方に注意して読むことが必要である。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	・すべての領域・観点で全国平均正答率を上回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	目的に応じ、中心となる語や文を捉えたり、文章の内容を的確に押さえながら文章の要旨を捉え、まとめて書く問題の正答率が高かった。文章の中心点や要旨を捉えることができていることが分かる。また、登場人物の気持ちの変化を想像して読むときの工夫とその理由を書くことのできる正答率が高かった。場面の移り変わりや登場人物の行動や気持ちの変化を捉えて音読することができている。	
	努力が必要な問題	文章の内容について、目的や意図に応じて、内容を整理しながら書くことのできる正答率が低く、無回答率が若干高かった。文章と図やグラフなどを関係づけて、自分の考えを時数制限の中でまとめることができるように指導することが必要である。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国平均正答率をやや上回っている。図形領域については全国平均正答率を下回っており、課題である。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	時刻を求める問題の正答率が高かった。日常生活に於いて、条件に合った時刻や時間を確実に求めることができている。	
	努力が必要な問題	作図に用いられている図形の約束や性質を理解する問題について正答率が低かった。図形の性質に基づいて、図形を構成したり、図形の理解を深めたりすることができるようにする必要がある。	

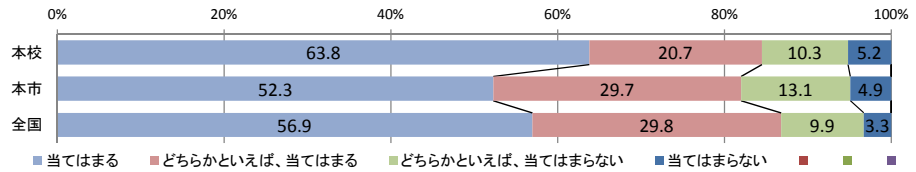
算数B	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国平均正答率を上回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	四捨五入しておよその数にしたり、示された部分の面積を求める問題の正答率が高かった。四捨五入して概数で処理する仕方を理解し、和や差を見積もることができていることや示された考え方を基に、条件を変更した場面を考察し、考えを説明することができていることが分かった。	
	努力が必要な問題	比較量と割合から基準量を求める問題の正答率が低かった。基準量、比較量、割合の関係を把握し、比較量と割合を基に基準量を求めることができるようにする必要がある。また、図形の性質を活用して、処理したり、判断の理由を表現したりする問題について正答率が低かった。目的に応じて図形の特徴や性質を選択し、事象の判断に活用することができるようにする必要がある。	

理科	全体的な傾向や特徴など	・すべての区分・観点で全国平均正答率を上回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	生命に関する問題、メダカの雌雄を見分ける問題の正答率が高かった。興味・関心や目的意識をもって飼育し観察することができていることが分かる。	
	努力が必要な問題	振り子の運動の規則性を振り子時計の調整の仕方に適用できるかどうかを見る問題の正答率が低かった。日頃から、問題解決を通して明らかになったことを日常生活に適用することができるようにする必要がある。また、顕微鏡の名称を理解し、適切な操作方法を身につけているかを見る問題での無回答率が高かった。理科で使用する器具の名称を理解し、目的に応じた適切な操作方法を身につけていくことが必要である。	

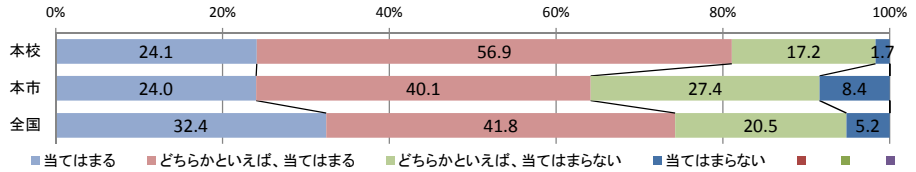
③ 学校での学習状況に関する調査結果

質問番号
質問事項

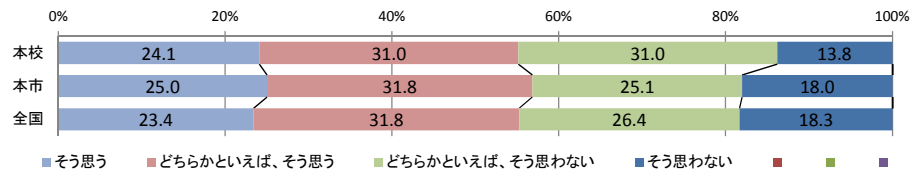
38
授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか。



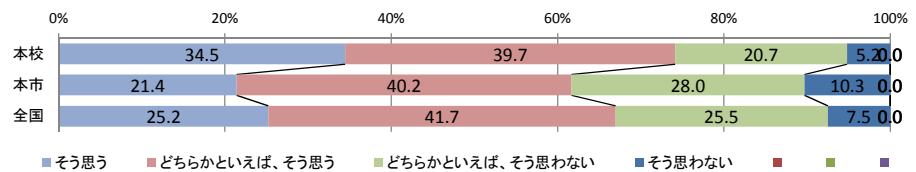
40
授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか。



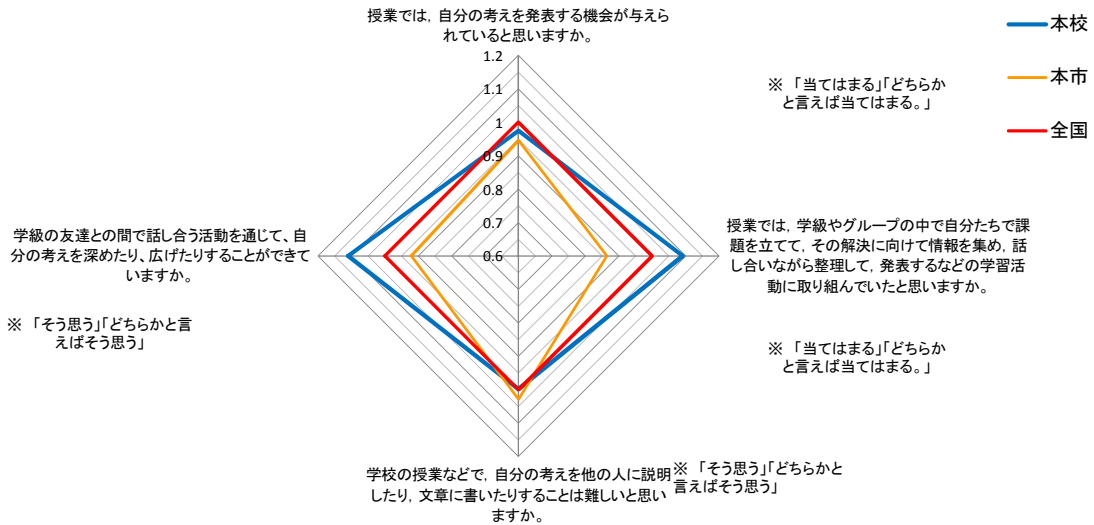
45
学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか。



46
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。



④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

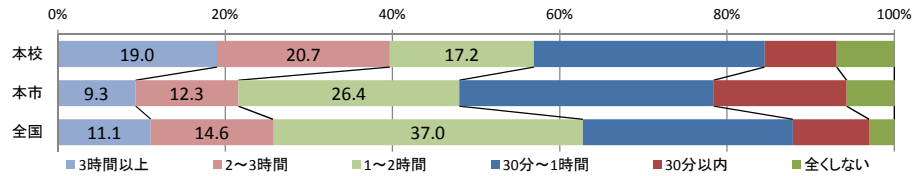
- ・ 自分の考えを他の人に発表することや、考えを文章に書くことに抵抗感を持っている児童が全国と比べ多い傾向にある。自分の考えを表現する力を伸ばすために「自分の考えを整理する時間の確保」と「かく活動」を重視する(ノート指導、学習感想)必要がある。
- ・ 総じて、本校の児童は、協同学習の中で課題解決に向けて話し合う機会が多く、その活動の中で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。しかしながら、正答率の低い問題を見ると、自分の考えを時数制限内で書くことを苦手に行っている。今後も話し合い(対話)、意見交換し、まとめたことを書く活動を授業に位置付ける。

2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

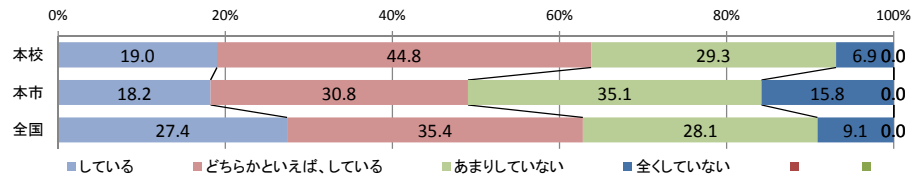
① 家庭学習習慣に関する調査結果

質問番号
質問事項

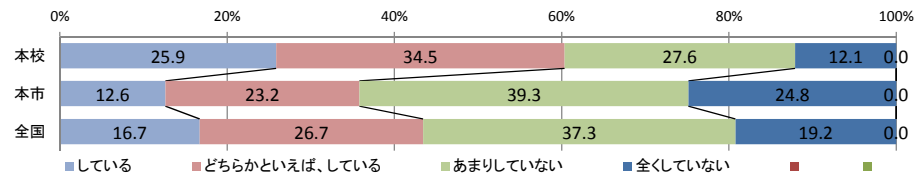
13
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。)



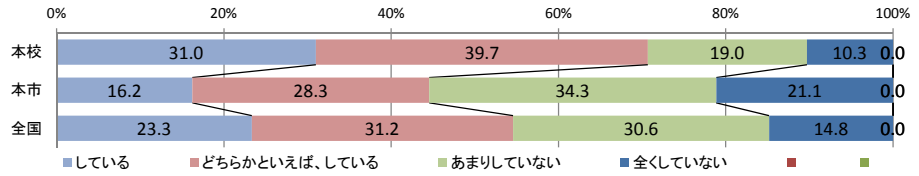
20
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。



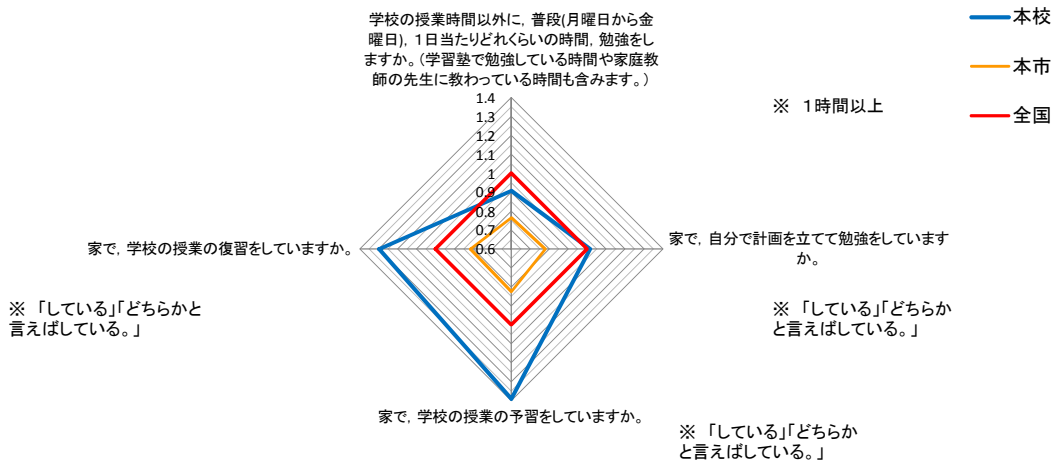
22
家で、学校の授業の予習をしていますか。



23
家で、学校の授業の復習をしていますか。



② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



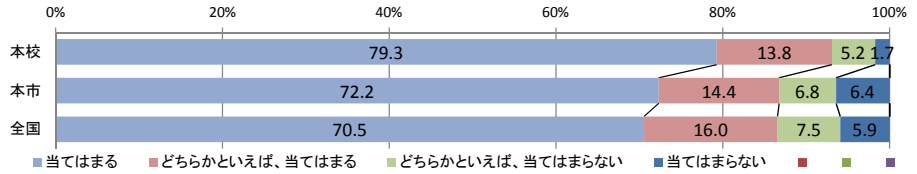
③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

・ 2時間以上家庭学習をしている児童の割合は、本年度全国平均よりプラス評価である。家で計画を立てて勉強することや授業の予習・復習等も全国平均を上回っており、自分で計画して勉強している児童の割合が多い。本年度から家庭教育チャレンジハンドブックを通して全校で時間のめやすを示したり、家庭学習の具体的な取り組み方を提示したりしたことで、自学自習に取り組んできたことが成果として表れている。

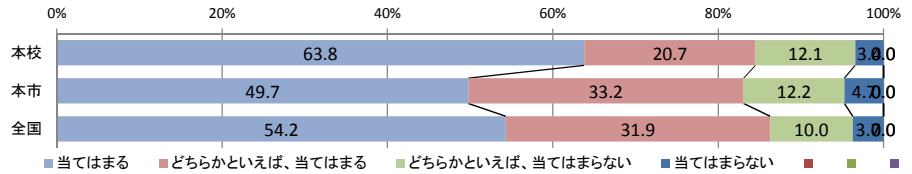
④ 生活習慣等に関する調査結果

質問番号
質問事項

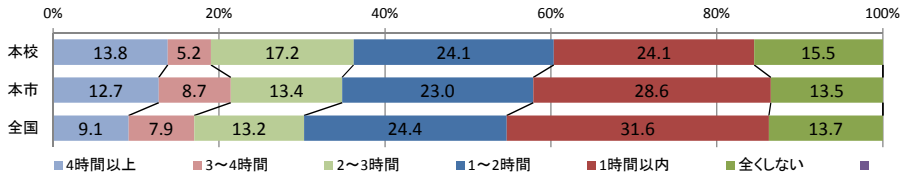
9
将来の夢や目標を持っていますか。



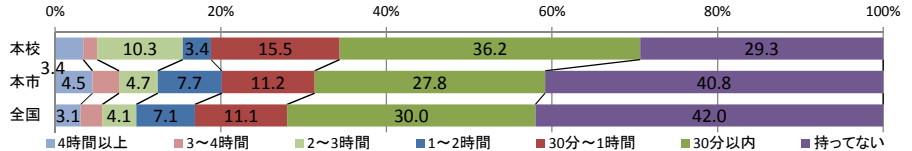
26
学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか。



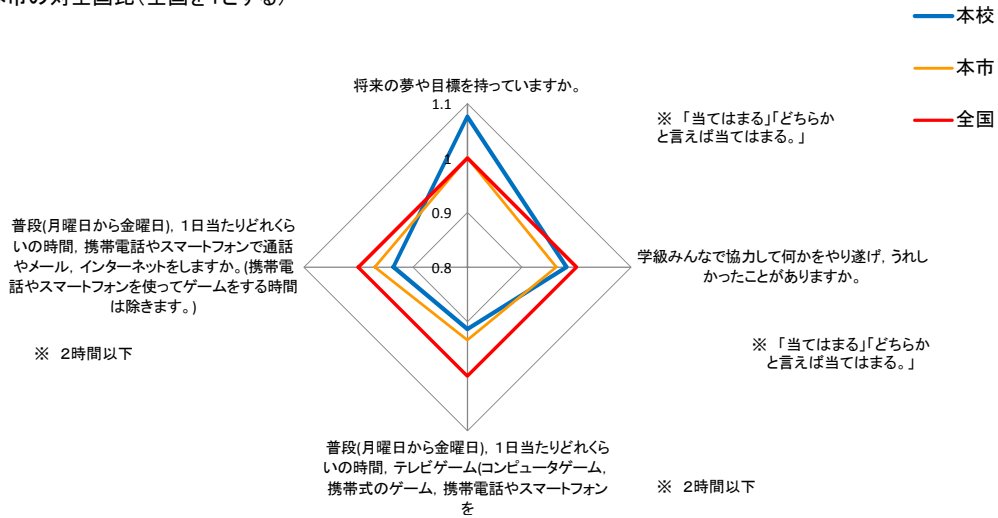
11
普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含みます。)をしますか。



12
普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除きます。)



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果の分析

- ・ 将来の夢や目標を持っている児童が多く、学習へのやる気につながっている。
- ・ テレビゲームや携帯ゲーム等の接触時間やテレビを見たり、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットを等の時間は上昇している。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組(全校・学年・学級・教科毎の取組)

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ◎ 学力向上に関する職員会議の定期的な実施
 - ・ 全職員で問題を解く。(学テ等)
 - ・ 家庭学習や授業の取組、朝自習の取組について検討する。
- ◎ 学力向上のための特設時間の設置
 - ・ 毎週「火・水」は朝の15分間読書、「金」は15分間の国語タイムを設定し、視写タイム・漢字練習タイム・音読等を設ける。「月・木」は15分間の計算タイムを設定し、全校一斉に基礎基本の学習の定着を図る。これら15分間の取組後、落ち着いた雰囲気の中で授業時間を迎えるようにする。
 - ・ 放課後学習タイム<学期末・・・4・5・6年生(月火木の放課後15分×2週)、1・2・3年生(月火木の放課後15分×1週)>の時間を設定し、CRTアシストシート・全国学力テスト過去問題を行う。
 - ・ 小中連携サポーター・・・計画的な配置、活動補助、プリント整備。
- ◎ 過去問題、活用力を高めるワークの活用
 - ・ 単元末に過去問題や活用ワークの問題を位置付け「力だめし」をする。
 - ・ 過去問を冊子にして、長期休業日の「宿題」とする。
- 各教科の指導においてICTの活用
 - ・ ICTを活用して、対話の場面を重点化し、子ども達同士の意見交換を活性化する授業を工夫していく。
- 「自分の考えを整理する時間の確保」「書く」ことの習慣化
 - ・ 児童の考えを整理する時間を授業に位置づける。
 - ・ 朝タイムに書く活用を図る。
 - ・ まとめたことを書く活動を授業に位置づける。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ◎ 宿題のスタンダード化(時間、学年別・教科別内容)
 - ・ 自主学習ノートの活用
 - ・ 家庭学習時間の設定
 - ・ 「家庭学習の手引き」の作成・配布をし、学校家庭が連携して学習習慣の定着を図る。(学校独自に作成・配布済)
 - ・ 「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用 ※配布済
 - ・ 長期休業日の宿題に、過去問題を活用
- ◎ 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知
 - ・ 学校便り・学校HP